出題のねらい・解答例
〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔栄養科学部　栄養科学科〕

【小　論　文】

栄養科学部栄養科学科は、管理栄養士養成課程であり、栄養科学の広い領域を学ぶ理系の学科である。学校推薦型選抜では、自然科学に対する理解と、その状況を理論的な思考で把握し、言語化して伝達できる能力が求められる。小論文の出題においては、記憶された知識を問うだけでなく、提示された統計データなどから情報を正確に、また的確に読み取り、設問に応じて計算あるいは考察し、適切な表現で記述できることを問う形式になっている。

（その１）

〈出題のねらい〉

食事を含めた生活様式の変容に伴い増加している生活習慣病について、特に食物繊維摂取量に着目し、日本人の１日あたりの食物繊維摂取量とエネルギー摂取量の推移（図１－１）と100ｇあたりの食品群別の食物繊維含有量とエネルギー含有量（表１－１）、ならびに若年女性（20～29歳）の食品群別の１日あたりの摂取量と目安量、および食物繊維量（表１－２）に関する資料を取り上げた。

設問１は、図中の２つの指標（食物繊維摂取量とエネルギー摂取量）の推移を正しく読み取り、適切に説明できたかを評価した。さらに、誤字・脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できているか評価した。

設問２は、食物繊維量とエネルギー量について、野菜類と肉類に含まれる量を比較して適切に記述できたかを評価した。加えて、誤字・脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できているか評価した。

設問３は、問いの文章に従い、表の数値の意味を適切に読み取り、正しく計算できたかを判定した。

設問４は、１日あたりの食物繊維の摂取量を効率的に増加させるためには、食品群別の１日あたりの食物繊維の摂取量と目安量の差から３つの食品群（穀類、野菜類、果実類）の摂取量を増加させる必要があることを推察し、論理的に記述できたかを評価した。加えて、誤字･脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できているか評価した。

〈模範解答例〉

設問１　１日あたりの食物繊維摂取量は年々減少しているが、エネルギー摂取量は、食物繊維ほど、大きな変化は観察されない。(54字)

設問２　野菜類は、肉類に比べて100g あたりの食物繊維量が多いが、エネルギー量は、肉類と比較して少ない。(49字)

設問３　（A）2.6（g）　（B）0.1（g）　（C）1.8（g）　（D）0.0（g）

設問４　若年女性の食物繊維量を効率的に増加させるためには、充足させると食物繊維を相対的に多く摂取することができる穀類、野菜類、果実類の積極的な摂取が必要である。(76文字)

（その２）

〈出題のねらい〉

健康日本21における目標の１つとされてきた日常生活における歩数の増加について、都市規模別の１日あたりの歩数の現状（表２－１）、および都市規模別の公共交通機関の利用頻度（表２－２）と各種生活サービスの利用に対して不満を持つ者の割合（表２－３）に関する資料を取り上げた。

設問１は、問いの文言を理解し、表を適切に読み取り、正しく計算できたかを判定した。

設問２は、都市規模と歩数の関連性に着目し、それらの大小関係について適切に説明できたかを評価した。加えて、誤字や脱字がなく定められた字数の範囲内で記述できているかを評価した。

設問３は、設問２の正答の背景について、表から考えられることを考察する問題である。表から都市規模と公共交通機関または自家用車等の利用率の大小関係を適切に読み取り、それによる歩行の機会への影響を推察し、適切に説明できたかを評価した。加えて、誤字・脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できたかについて評価した。

設問４は、都市規模が小さい市に居住する成人の歩数を増加させる社会環境の整備について、表から考えられる具体策を考察する問題である。表２－３から都市規模と各種生活サービスの利用に対する不満度の関係性について、特に店舗・商店、金融機関、役所、病院、および公共交通機関に関する施設・サービスにおける特徴を適切に読み取った上で、表２－１と表２－２の両方から考えられる具体策を考察し、論理的に記述できたかを評価した。加えて、誤字・脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できたかについて評価した。

〈模範解答例〉

設問１　（A）7528（歩／日）　（B）5180（歩／日）

設問２　いずれの年齢層でも、都市規模が小さくなるほど歩数が少なくなる傾向にある。(36字)

設問３　都市規模が小さい都市ほど公共交通機関の利用が少なく、自家用車等で移動しがちとなり歩行での移動の機会が少なくなることが、歩数が少ない背景にあると考えられる。(77文字)

設問４　店や金融機関、役所、病院などの都市機能を集約した都市構造を形成し、各施設をコミュニティバスなどで繋いだ公共交通網を整備すること。それにより、自家用車の利用が制限され、自分で歩いて移動する機会が多くなり、歩数を増加させることができると考えられる。(122文字)